

第1号 稲作管理特報

令和4年3月11日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

品質の高い「みな穂米」生産のためには、まず「土づくり」です。「ケイ酸質資材」や「堆肥・発酵鶏ふんなどの有機質資材」の施用と「15cm以上の深耕」によりスタートしましょう。

1 土づくり ～不足している土壌の成分を補給する～

- 近年、土壌のカリ・ケイ酸・鉄分の不足により、「ごま葉枯病」（写真1）が多発しています。ケイ酸が不足すると、「割粃」が多くなり「斑点米カメムシ類」の被害（写真2,3）も増加します。
- 土づくりは、継続することが重要です。耕起前に必ず実施しましょう。

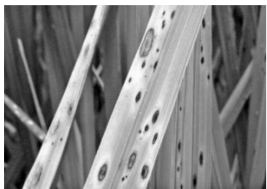


写真1 ごま葉枯病の病斑

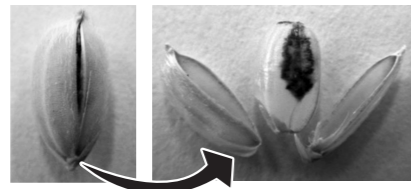


写真2 割粃と斑点米



写真3 斑点米カメムシ類

ポイント1 ケイ酸質資材の継続的な施用

- 土壌改良資材の施用を中止すると土壌中のケイ酸含量は急激に低下します。
- ケイ酸を補給した稲は異常高温にも強くなるので必ず施用しましょう。

○標準施用量 (①、②より選択)

①	「シリカパンチF」120kg/10a施用
②	「珪酸石灰」160kg/10a と 「苦土重焼燐」20kg/10a
	「アサヒニューテツ」160kg/10a と 「苦土重焼燐」20kg/10a

※洪積地帯（山手）は「苦土重焼燐」40kg/10a施用

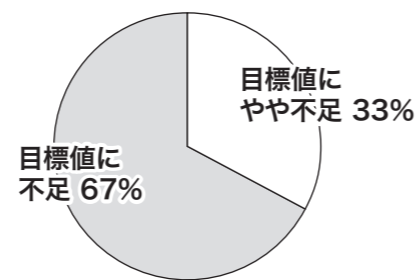
ポイント2 有機物の施用

- 腐植分を高めて地力を向上させましょう。
- 堆肥や発酵鶏ふんは、近年不足しているカリの補給効果があるので必ず施用しましょう。

主な有機質資材

- 牛ふん堆肥(1 t/10a)
- グリーンウェイブ2 (60kg/10a)
- 発酵鶏ふん(春施用 75kg/10a)

カリが不足しています



土壌調査結果(24地点)

※みな穂農協管内の展示ほの殆どのほ場ではカリが不足しています。

みな穂の米づくりは、まず「土づくり」から始めよう！

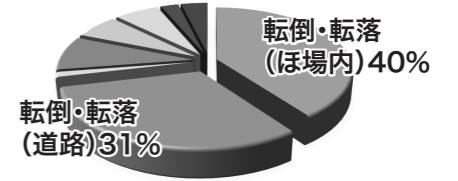
ポイント3 トラクタの速度を落とし、15cm以上の深耕を確保

- 現状+3cmの深耕に努めましょう。
- 深耕により根の伸長が促進され、根域が拡大し、米の品質向上につながります。

2 農作業安全 ～トラクタによる事故をなくすために～

1 道路からの転倒・転落死亡事故防止！

最近の農作業死亡事故のうち、トラクタによる死亡事故が約3割を占め、その約7割が、ほ場や道路からの転倒・転落でした。



乗用トラクターの死亡原因

- 安全フレーム付きのトラクタを使用し、シートベルトを必ず着用しましょう。
- 作業終了後、ほ場を出る前にブレーキ連結を確認しましょう。
- カーブでの減速、一旦停止を行いましょ。
- 移動道路やほ場の危険箇所を確認しましょう。

2 作業機付きトラクタで公道走行を行う場合は法令順守！

※トラクタで公道走行する場合の関連法令が定められています。

- 小型特殊免許（普通免許に付帯）で運転できるものでも、幅1.7mを超える作業機を付けていれば大型特殊免許が必要となります。
- 幅2.5mを超える場合は、赤枠三角表示、全幅表示、赤白ゼブラ表示、白灯火、赤灯火、赤色反射器などを所定のところに付ける必要があります。また、走行経路を決め、道路管理者（国・県・市町村のいずれか。）から通行許可を得る必要があります。

3 耕うん・代かき時の事故防止

- トラクタ作業の際は、引っ掛かりや巻き込まれにくい服装をし、滑りにくい靴、ヘルメットを装着しましょう。
- 作業機取替、点検修理中、つまり除去時はエンジンを停止しましょう。
- 乗降時は場所を確認し両手で支えましょう。

春の土づくり運動（令和4年3月～5月）

春の農作業安全運動（令和4年4月～5月）

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

主な情報提供内容

- ・水稲・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

